



昨年度までの「富高通信」は今年度より「黒門通信」にリニューアル!

生徒向け・保護者向けに特化して発信していきます。

「随處作主」～自ら考え、主体的に行動する力を育む～

校長 関口 博士

校長として2年目を迎えました。昨年度は、「千里の行も足下より始まる」ということばを繰り返しながら、平成30年の開校以来の取組を検証し直し、これからの富岡高校の教育活動について検討を進めてきました。

その過程の中で、表題にある「随處作主」ということばに思い至りました。このことばはどのような場所にあっても自ら主体的に行動することの大切さを述べたものです。すでに、入学式や始業式などで生徒に向けて話してきましたが、日々の授業や学校行事、部活動等の様々な活動を通して、自他を尊重し、自分のいる場所で、自ら考え主体的に行動できる、「こころばえ（人品雅致、質実剛健、自主自立）」豊かな生徒を育てていきたいと考えています。

現在も、新型コロナウイルス感染症による様々な制限を受けることが多くありますが、今できることを工夫しながら学校の教育活動を進めていきたいと思っておりますので、保護者の皆様には、引き続き、本校の教育活動をご理解いただき、ご支援、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和3年度末人事異動における富高転出職員から富高生へのメッセージ

「富高での2年間を振り返って」

教頭 高橋 利之(高崎特別支援学校へ転出)

富岡高校での2年間はあっという間でした。コロナ禍のため、例年とは異なる学校生活でしたが、保護者の方々や教職員、生徒の皆さんの理解と協力で充実した2年間でした。ありがとうございました。富岡高校の生徒の皆さんには無限の可能性があります。学習、学校生活にも、地域の活動にも、前向きに取り組む姿勢と素直さは大きな強みです。将来の自身の姿を想像し、それに向かって日々を過ごして、10年後・20年後に社会の中心となって活躍することを楽しみにしています。PTAや同窓会、地域の皆さんにもお世話になりました。感謝いたします。

「今を大切に」

事務長 浅川 利行(ご退職)

多くの皆様に支えられ最後の2年間で富岡高校で充実した日々を送り勤務させていただき、無事定年退職を迎えることが出来た事に感謝いたします。事務職員としていつも意識していたのは、準備することの大切さです。日常に於いて準備が出来ていれば時間や心のゆとりが生まれ、その後の対応や行動も変わります。授業の予習等、何事にも共通すると考えます。高校時代は社会人に成る為の準備期間です。目標を決めている方、迷っている方も、今、この時を未来を創る時として丁寧に過ごしてください。富高生の今後のご活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。

「しなやかな強さを」

家庭科 田村 みほろ(ご退職)

退職前の4年間、統合を経た富岡高校で過ごすことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。今皆さんに伝えたいことは「しなやかな強さを持って生きて欲しい」ということです。雨風の吹き荒れた後の押し倒された草木はとても無惨に見えます。ところが、大きな木が折れているのに弱々しそうな草が幾日かすると見事に起き上がっている姿を見ることがあります。荒波にもまれながらも起き上がれないということをしなやかな強さを持った植物のように、したたかに生きていって欲しいと願っています。

「10年後の自分から」

理科 中村 健一(藤岡北高校へ転出)

富岡高校には、平成8年から7年、平成24年から東高校で6年、そして新高校で4年の合計17年間お世話になりました。この17年間は、真面目で人柄すぐれ素直な生徒や常に協力的な保護者の方々、生徒の成長のためには時間を惜しむことなく取り組む先生方と過ごすことができ、充実した今思うと感慨深い毎日でした。これから様々な活動をしていく中で、10年後の自分から叱咤されることは良いが叱責されることがないように歩いてみてください。失敗しても良いと思います。あせらず、一歩ずつ夢や希望をもってすすんでいってほしいです。

「富岡高校の皆さまに感謝」

地歴公民科 池田 賢一 (高崎高校へ転出)

統合を間にはさんだ6年間勤務させていただきました。変化が激しい中、何とか自分の役割を果たすことができたのは、生徒・保護者・教職員の方々に助けていただいたおかげです。ありがとうございました。特に、富岡高校の生徒の素直さや思いやりのあるところには何度も救われました。今後も文武両道に励んで、この良い資質を伸ばしていきましょう。高崎の地から皆さんの活躍を祈っています。

数学科 三浦 俊行 (伊勢崎清明高校へ転出)

富岡東高校で6年、富岡高校で4年、計10年間お世話になりました。教員生活の多くの時間をこの富岡で過ごせた事がとても嬉しく思います。もう少し関わっていたかったのですが…新高校になるタイミングで戻ってきて、少しでもプラスにつながる事ができたかな?と思います。

富高はとても楽しくいろいろなことが学べる学校だと思います。みなさんも自分の目標実現に向け、いろいろなことに挑戦して成長していくことを期待しています。

「自分の進路 (人生) は、自分で決めよ」

理科 津田 京子 (松井田高校へ転出)

旧富岡高校で5年、新富岡高校で4年間、皆さんと共に学ぶことができたことに感謝しています。離任式でも伝えましたが、皆さんに伝えたいことはただ一つ、「自分の進路 (人生) は自分で決めよ」ということです。自分の人生は、自分のものであり、親のものでも先生のものでもありません。自分自身でよく考え、納得できる道に力強く進んでほしいと思います。そのためにも、自分から親でも先生でもない大人と積極的に関わり、いろいろな人の生き方を知ってほしいと思っています。これからの皆さんの活躍を期待しております。

「富岡高校の皆さんへ」

国語科 伊藤 博一 (土屋文明記念文学館へ転出)

富高生の皆さん、お元気でしょうか。たった1年、しかもコロナ禍の影響で皆さんと過ごす日々やイベントが少なくなってしまった1年でしたが、それでも皆さんと過ごした日々は忘れられません。特に旧1-5を中心に授業を受けてくれたみんなのことは。今の職場では、これまでの経験をリセットして、また様々なことを一から勉強し直しています。本は、皆さんと違ってリアクションをしてくれないので少し寂しいです(笑)。富高生の皆さんの活躍が、遠く高崎の地まで届いてくるのを毎日楽しみにしています。元気に積極的に、学生生活を送ってください。

「お世話になりました」

地歴公民科 梅澤 英明 (前橋女子高校へ転出)

1年間という短い期間でしたが、生まれ育った富岡で勤務する経験はこれまでなかったことなので、とても新鮮な気持ちで毎日を過ごさせていただきました。歴史と伝統を受け継いだ富高で、何事にも前向きに取り組む素晴らしい生徒の皆さんや、指導力のある教職員の方々とともに過ごせたことは、かけがえのない経験です。ただ、お互いにマスクに半分覆われた姿しか知らないのと同じように、まだまだ知らなかった富高の良さがあるのではないかと思います。残念なのですが、本当にお世話になりました。

「心と体を大切に」

養護教諭 郷 由梨 (ご退職)

短い間でしたが、富岡高校で様々なことを経験でき、大変充実した日々でした。保健室で関わる中で、今時の高校生事情を含め学ぶこともたくさんありました。新型コロナウイルス感染症の影響で活動が限られることがありますが、皆さんの良いところは、臨機応変に対応する力やたくましさだと思います。今後も普段通りにはいかないことがあると思いますが、色々なことにチャレンジしてください。頑張るにも健康が大切なので、自分の心と体を大切に過ごしてください。皆さんの活躍をこれからも応援しています。

「ありがとうございました」

事務職員 山口 莉奈 (高崎高等特別支援学校へ転出)

4年間、大変お世話になりました。初任校ということで色々不安もありましたが、関わっていただいた多くの方々のおかげでどうにかやっていくことができました。本当にありがとうございました。生徒の皆さんと直接関わる機会はあまりありませんでしたが、頑張っている姿にいつも元気を貰っていました。富岡高校で過ごした日々は、思い出としてずっと大切にしていきたいと思います。色々振り返ってみれば、もう二度と体験できないことがたくさんありました。何気なくも貴重な日々を、皆さんも大切に過ごしてみてください。